

① 道道 蘭越ニセコ倶知安線 電線共同溝整備事業

授賞機関 北海道 後志総合振興局 小樽建設管理部 真狩出張所

キーワード 角型FEP管、コスト縮減、早期完成

全建賞審査委員会の評価ポイント

第一次緊急輸送道路の防災機能向上とニセコにおける美しい景観確保を目的とした電線共同溝事業。角型FEP管の採用などコスト縮減をしながら、地元との合意形成や事業者間の連携を図ることによりスピードアップを実現させ、事業開始からわずか2か年（通常7年程度）で完了させた点が評価された。

1. はじめに

後志地方の観光・防災上重要な地域である倶知安町山田地区において、道道から見る事ができる羊蹄山やニセコ連峰を含めた後志地方の美しい景観を確保し、第1次緊急輸送道路としての防災機能向上を図るため、ニセコグラン・ヒラフスキー場へのアクセス道路であるひらふ坂を中心とした観光地において、電線共同溝を施工し当該事業区間の無電柱化を図るものである。

2. 事業の概要

一般道道蘭越ニセコ倶知安線は、蘭越町を起点としニセコ町を経て倶知安町の国道5号との交点を終点とする地域産業及び地域生活に密着した路線である。

周辺にはニセコグラン・ヒラフスキー場があり、沿線にはホテル・ペンション等がある北海道を代表する観光地である。また、当該事業区間は第1次緊急輸送道路に指定されており、災害等有事の際に地域の主要道路となる防災上も重要な路線である。さらに、令和元年10月25日～26日には、G20の観光大臣会合が開催されるなど注目の集まっている地区である。

国際的な観光地のため、宿泊施設等の民間開発が積極的に行われており、電力需要の増加に伴う多数の電柱や電線類が景観を阻害している状況にあった。

工事の実施にあたり、コスト縮減、施工の合理化・効率化を図るため、電力線管路を従来から使用しているCCVP管（電力ケーブル用耐熱耐衝撃性塩化ビニル管）に代わり、角型FEP管（角型可とうポリエチレンケーブル保護管）を北海道で初めて採用した工事になる。

角型FEP管はCCVP管と比較して安価であり、CCVP管敷設に必要な管路受台が不要になるため、当該工事では管材料費が従前の約40%に抑えられ経済的であった。また、角型FEP管はCCVP管よりかなり軽く（CCVP管φ130の約1/3の重量）施工が容易であり、

可とう性があるため支障物があってもその場で対応が可能となり施工性に優れていた。

3. 事業の成果

工事の完成により、道道から見る事ができる羊蹄山やニセコ連峰を含めた後志地方の美しい景観を確保し、かつ第1次緊急輸送道路としての防災機能向上を図ることができた。

また、地元との合意形成や事業者間の連携を行い、スピードアップを図り、ひらふ坂を中心とした観光地において、延長2,180m（L・R両側延長4,360m）の電線共同溝事業を平成30年度から令和元年度までの2か年で完成することができた。



整備前



整備後

4. おわりに

無電柱化により、地元からは「景観が良くなり効果は絶大」との感謝の声も寄せられ、後志地方の観光産業に大きく貢献することができた。

最後に、地域の皆様、関係機関の皆様及び工事関係者の皆様のご理解・ご協力もあり2年間という短期間で事業を完成出来たことに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

賛助会員 鹿島道路㈱、ダイシン設計㈱、㈱中山組